小学校における支援体制づくり

問題を担任一人で抱え込みがちな小学校において、校内支援体制の構築は重要な課題であり、「中１不登校」への対応の基盤となります。

たった１日だけでも、理由が発熱であっても、「欠席は、児童に翌日の“登校しずらさ”をもたらす」という意識を持つことが大切

欠席した児童への対応の基本線を定め全職員で共通理解

翌日の授業予定や配布物は必ずその日のうちに家庭に届くように

その児童を気にかけている担任の温かい思いが家庭に届くように

各学級の欠席状況を全職員で把握

＜例えば＞

◇欠席状況の報告を職員会議に毎回位置づける

◇欠席者を記入する小黒板を職員室に設置する

欠席に敏感に

欠席日数に基準値を設定

基準値に達した場合の手続きを定め全職員で共有

＜例えば＞

１ケ月累積３日の欠席で学年会議による協議

チーム支援

学年会の連携強化

担任以外が学級に関わる機会の少ない小学校では、まず学年内で常に連携し、支え合うことが大切

小学校のポイントは

コーディネーターは柔軟に

一人に限定せず、ケースによって役割を果たす職員を変える方法もある

学校の実情に応じた柔軟な設置を

保護者と学級担任という関係を中核に！

この関係が維持され深まっていくように、関係職員がそれぞれの立場でサポートすることが、小学校におけるチーム支援の基本

外部関係機関（福祉・医療等）との連携は小学校から

学校の対応だけでは限界があるケースは、コーディネーターを中心に関係機関との連携を図り、問題を先送りしないことが大切